



樂亭西馬録
雄齋因輝畫

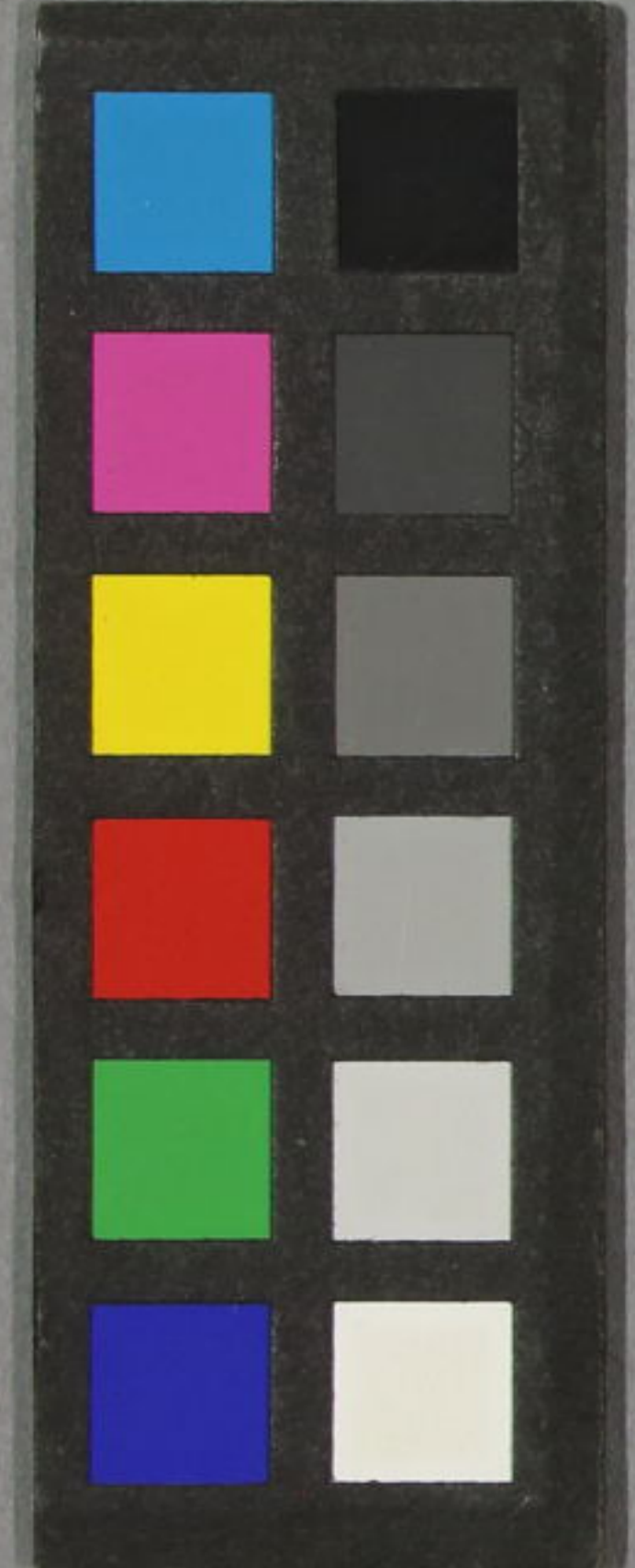
北道曲之因色

Gōkan: (111)
Yumihari Zuki,
8 books, 16 vols.
(Part 2)

弓張月拾壹篇

~ 13
3693
22

~ 13
3693
21

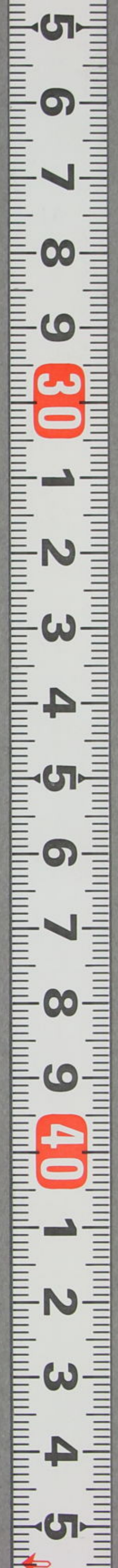
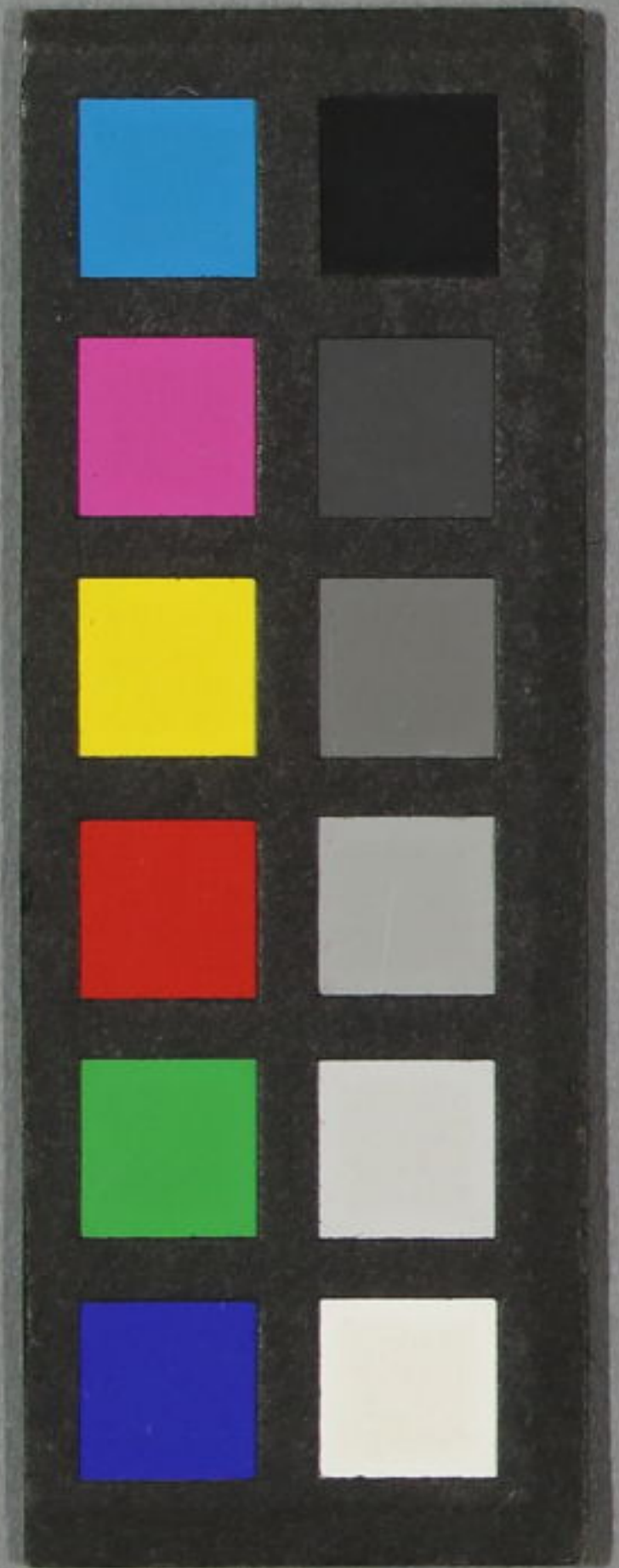


Gōkan: (111)
Yumihari Zuki.
8 books, 16 vols.
(Part 2)

弓張月拾壹篇



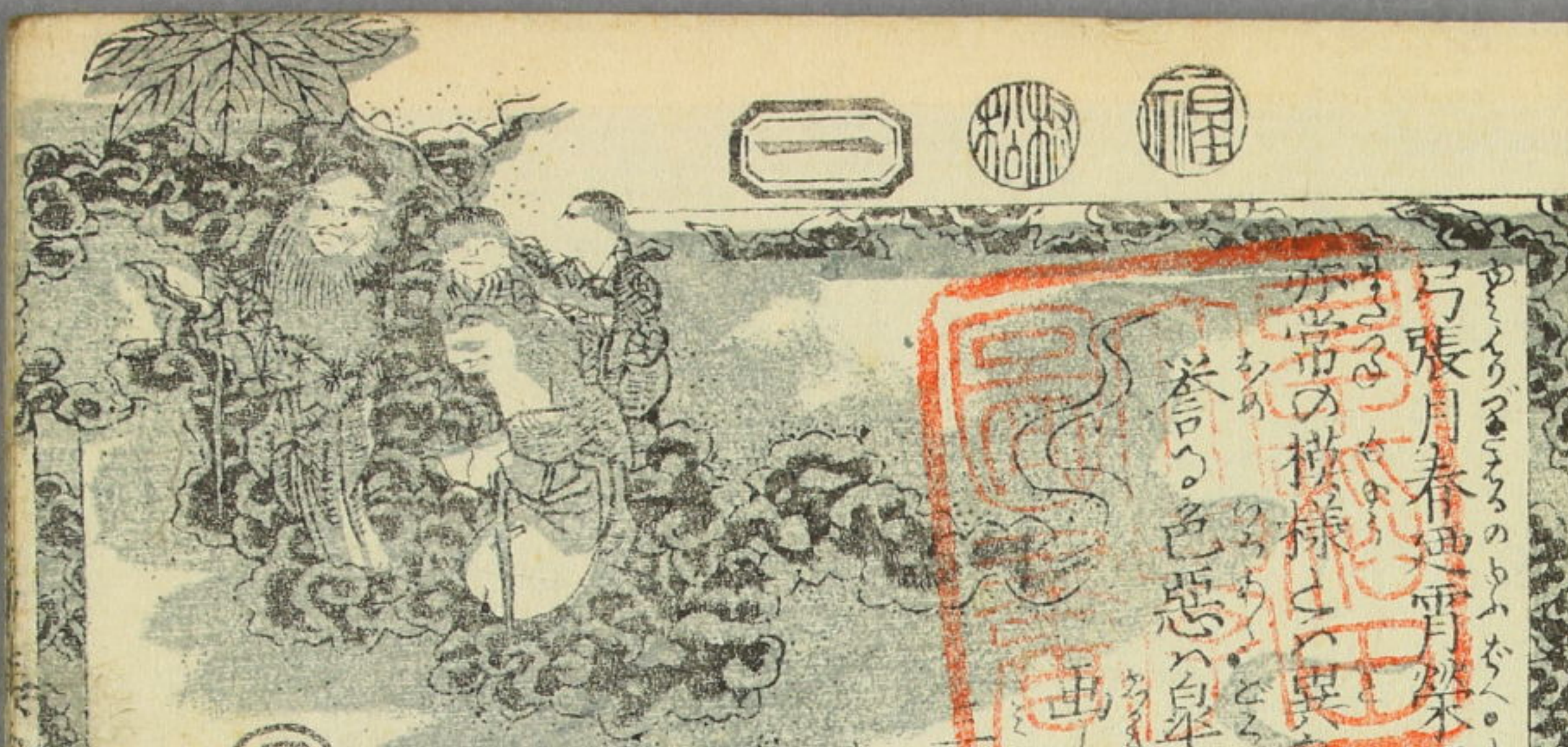
~ 13
3693
21



同へ13
號 3693
卷 21



弓張月十一編
上册 西馬録
國輝画 錦昇文庫



弓張月春通宵祭既編と次ぐ第十輯に至る此巻より琉球國の談りて団体
が常の模様と異なりされば戯場めきたる間識合のきりりもあけきり誰家号
答の色悪の泉月懺の藝入とひとく根生株と称せん荒吏の祇園會此等
大燈ふりつらうとる中み大まの慶訪使竹田の紋の庫夜あて
十年前文受の初め崎陽より來て西國と興行せるかその
通名より唐衣の踊り能繁昌くと市中皆諷ふ童形の友と
集め十余人群ふり踊歩く其鳴物を造て是を打囃子或は張
子の蛇とほひ別種器具を製賣者中の利分を得如斯大當り
を思ハシヤム鍋金趁羅廓の流行小連心御真のらんと拙我
吐未曾の慢吹をりら深蒸料理のおまのへ飽給つ
御高覽希ふ而已
嘉永六癸丑年三月發兌
樂亭西馬誌

嘉永六癸丑年三月發兌
樂亭西馬誌

長月十一



山南省
北谷託女の長
女君阿公

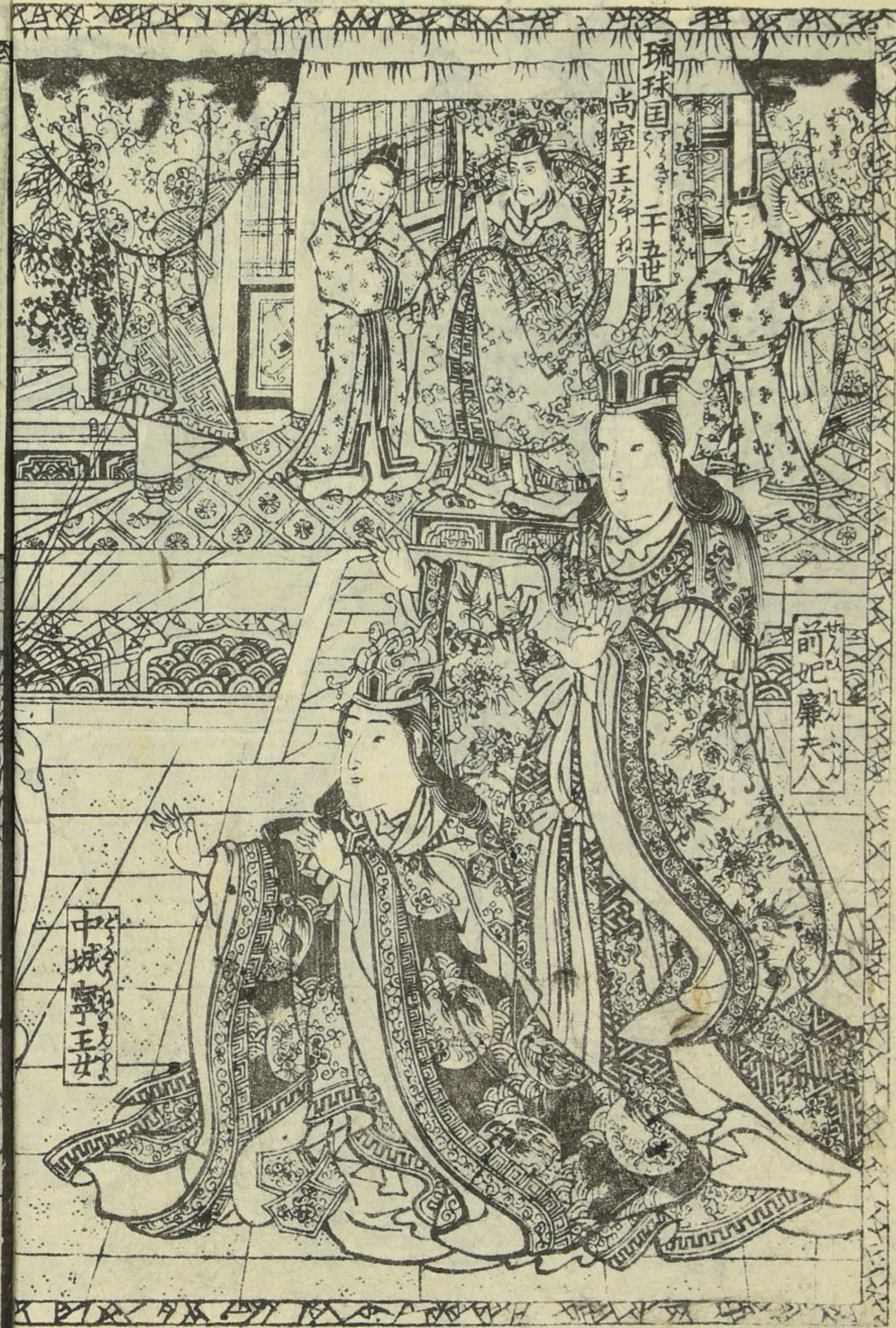
孤女
真鶴

君真物の神
出現を
按司
毛國典



紫巾官
利勇

長月十一



Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the illustration of a woman. The text is densely packed and appears to be a commentary or a narrative related to the scene depicted.



Handwritten Japanese text in vertical columns, located to the right of the main illustration. It likely provides additional context or commentary on the scene.



嘉永八年乙卯春新彫目録

全地本草紙問屋
りりり町笑壽屋庄七版

竹雀千代哢
西馬補案
國輝画圖

聖德太子
大和鏡
万草應賀作
一壽存國貞画

三鱗形
鏡倉双弁
西馬作
國輝畫

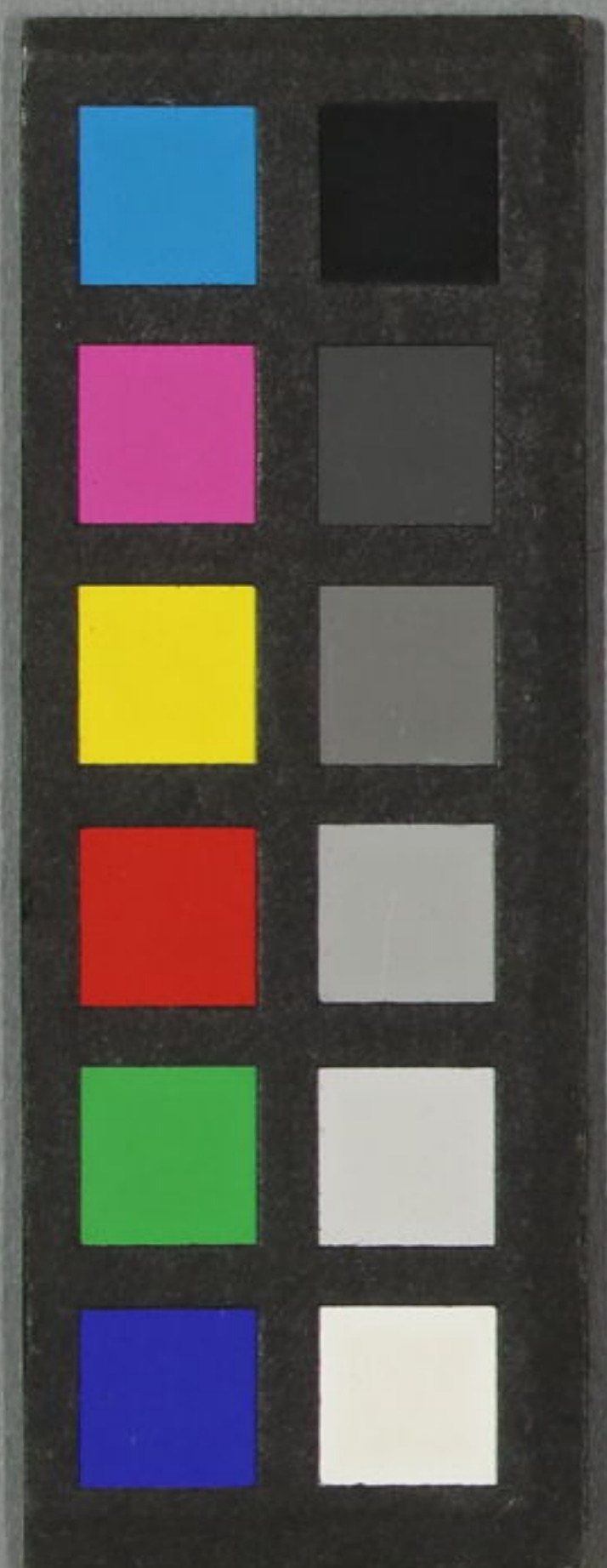
雲龍
九郎
偷盜
傳

故人三馬遺稿
増補西馬案
画工一勇齋



西馬譯
國輝画

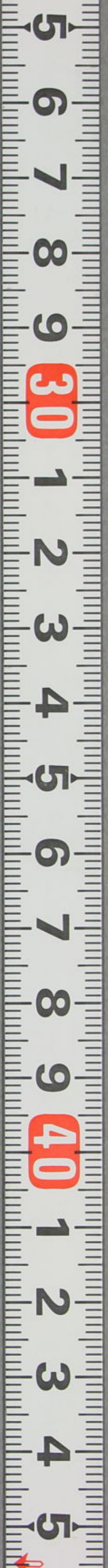




樂亭西馬録
一雄齋因輝畫

非題曲之因因也

~ 13
3693
22

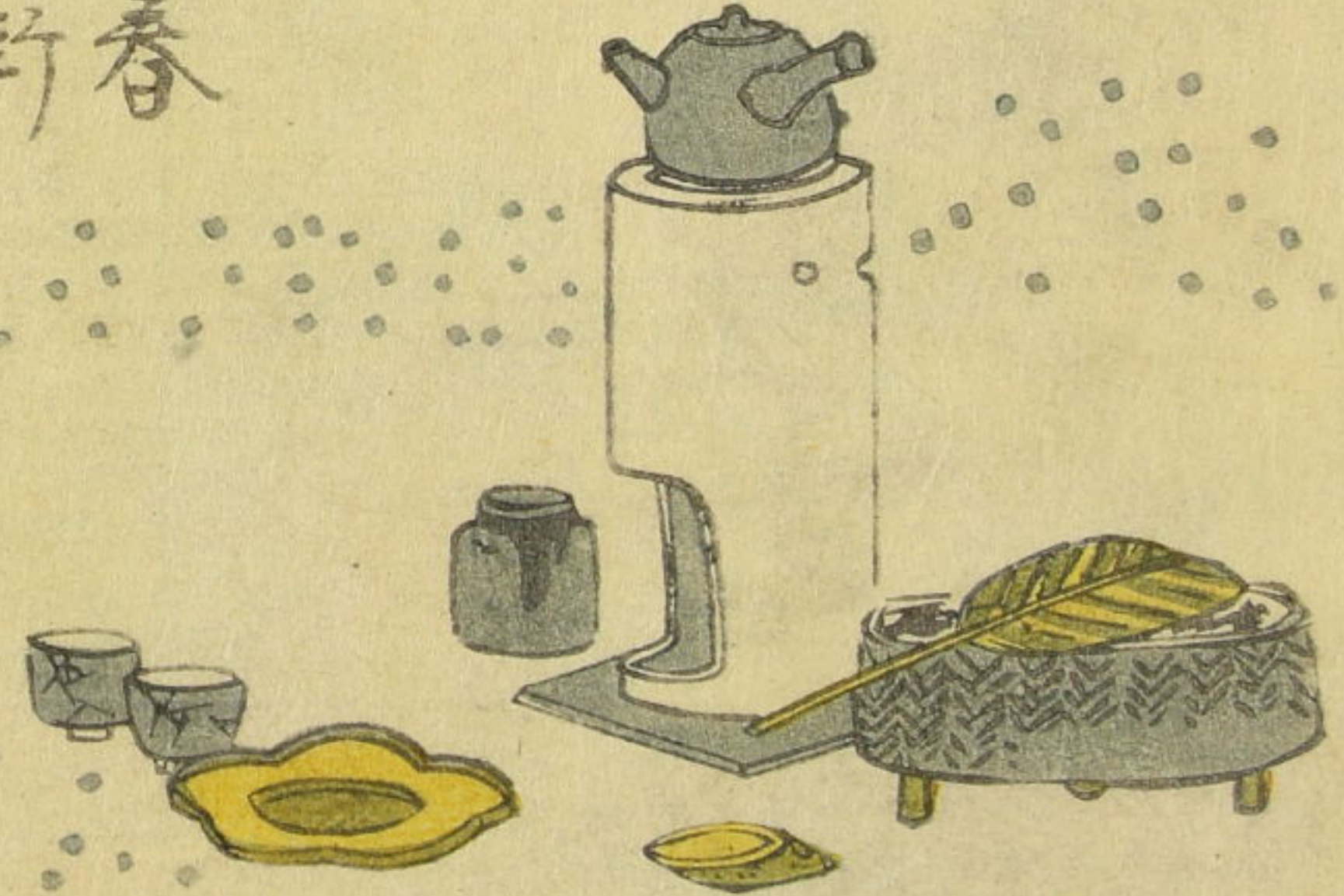


門心 13
 號 3693
 卷 22

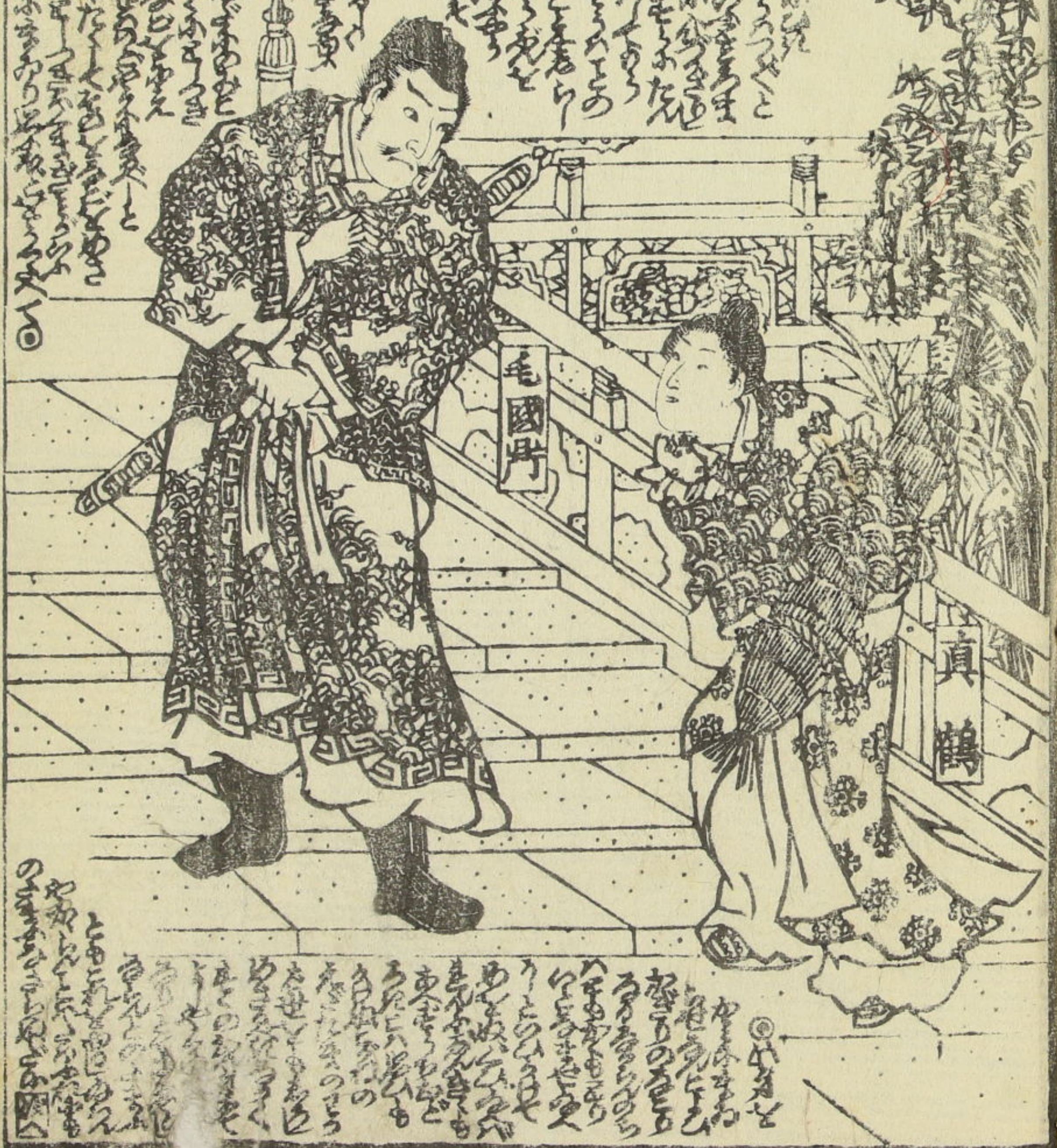
弓張月

美の夕景
 十一編下
 樂亭録
 国輝重

甲寅春
 照隆街
 惠比寿屋庄七板



Handwritten text in vertical columns, including a red seal. The text appears to be a preface or commentary related to the illustration.



Additional handwritten text at the bottom left of the illustration, likely a signature or further commentary.



毛國丹

此の人物は、
 長月十一日、
 毛國丹の
 名で知られる。

此の人物は、
 長月十一日、
 毛國丹の
 名で知られる。

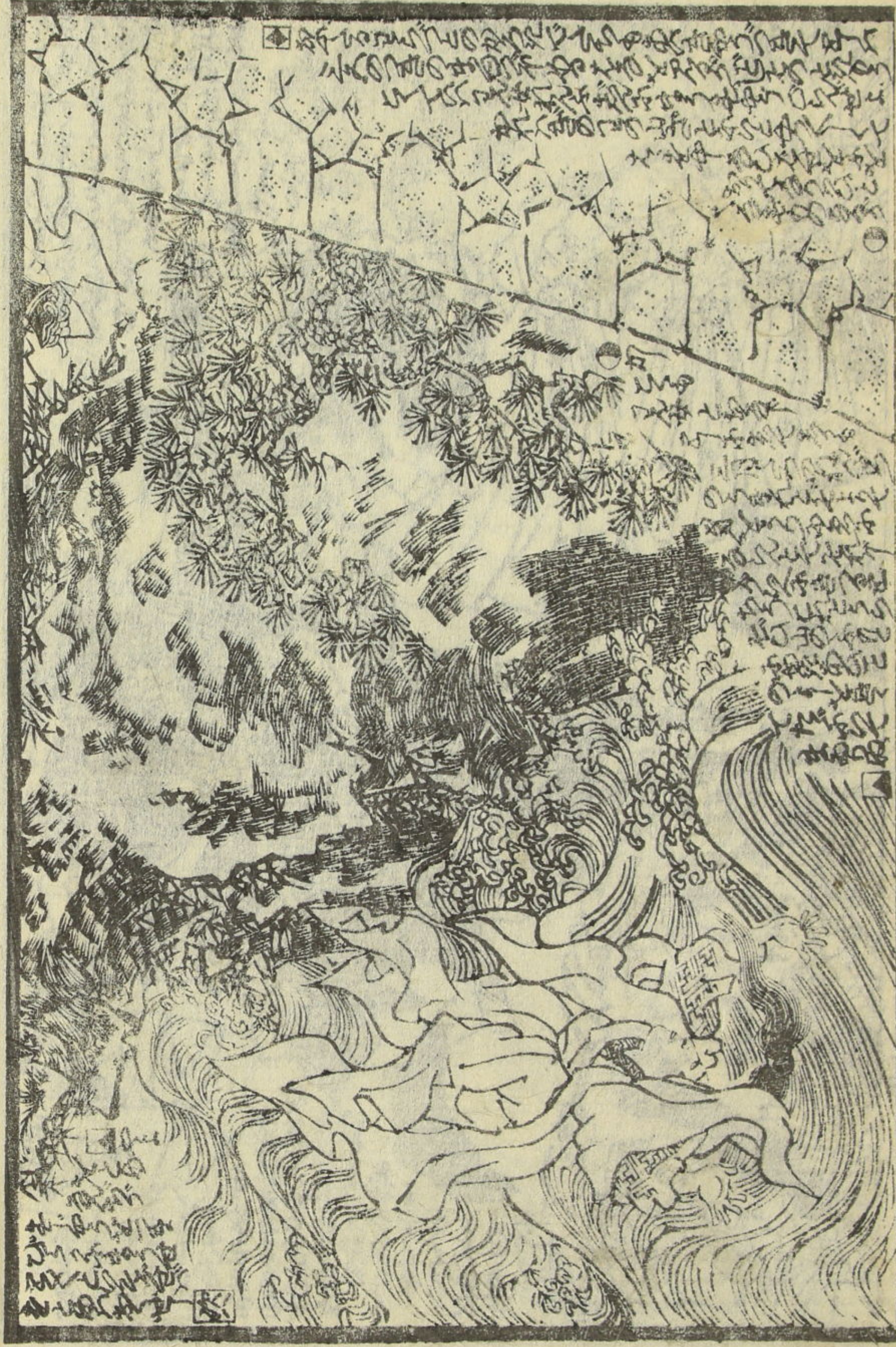
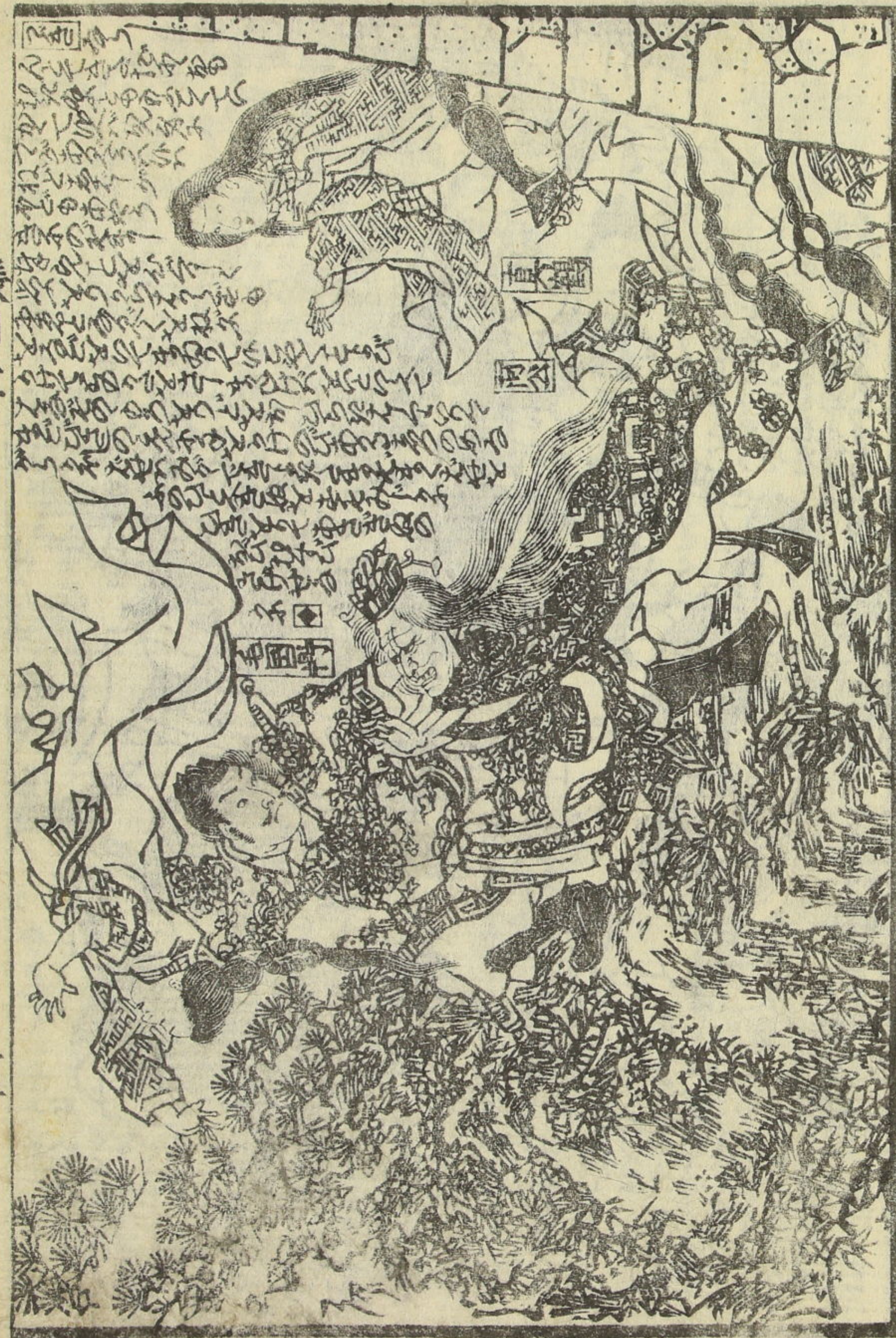


阿公

此の人物は、
 阿公の
 名で知られる。

真鶴

此の人物は、
 真鶴の
 名で知られる。

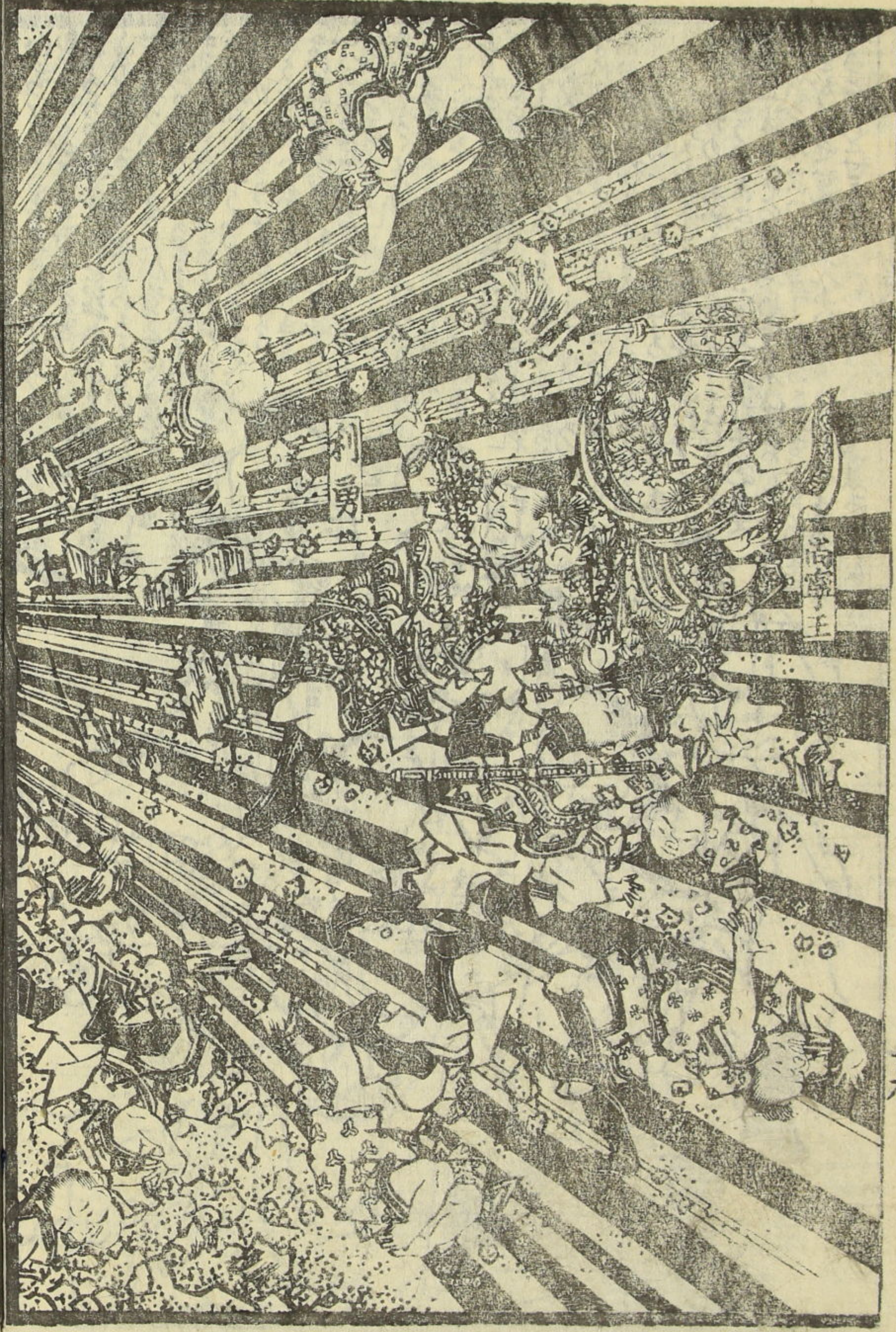
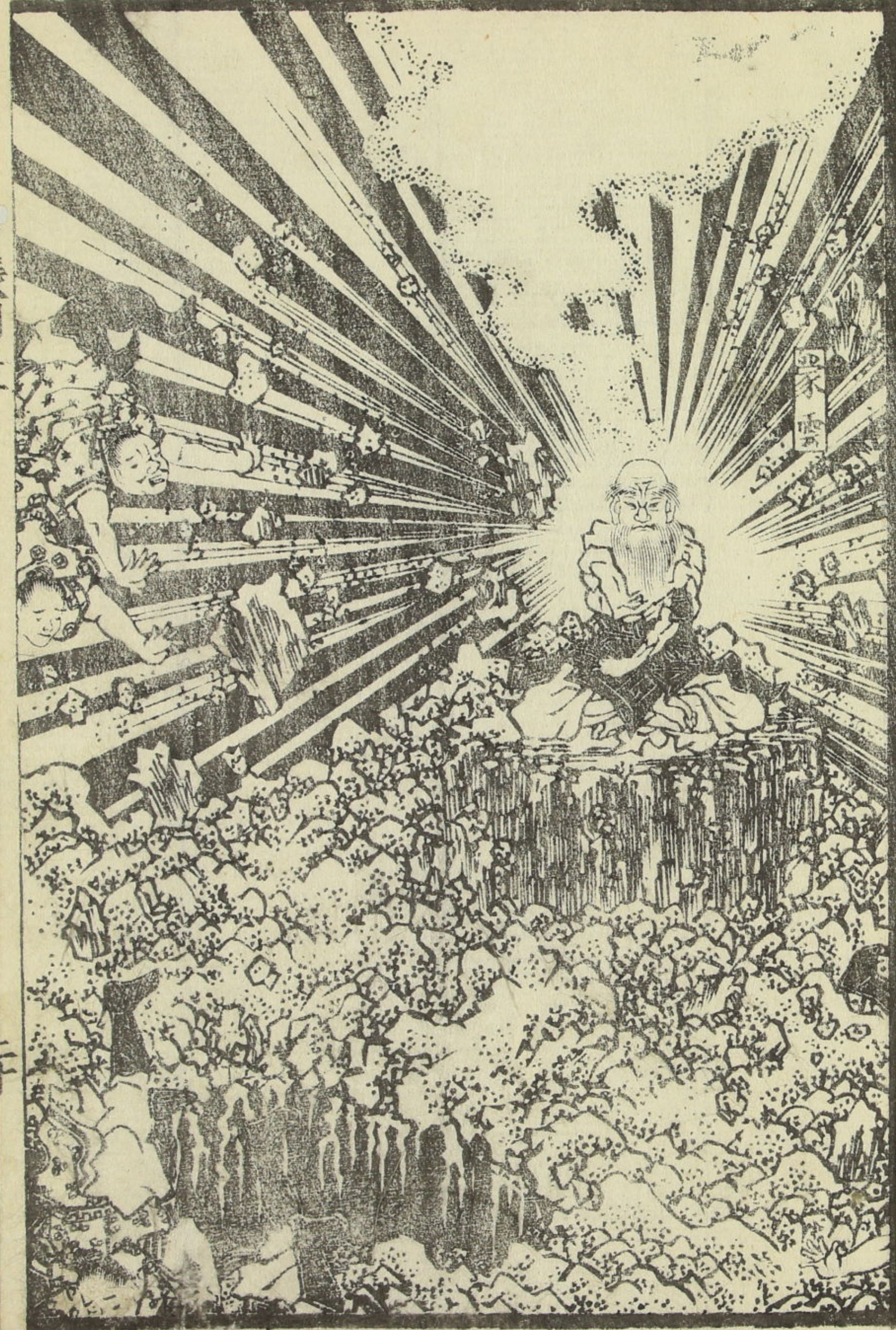






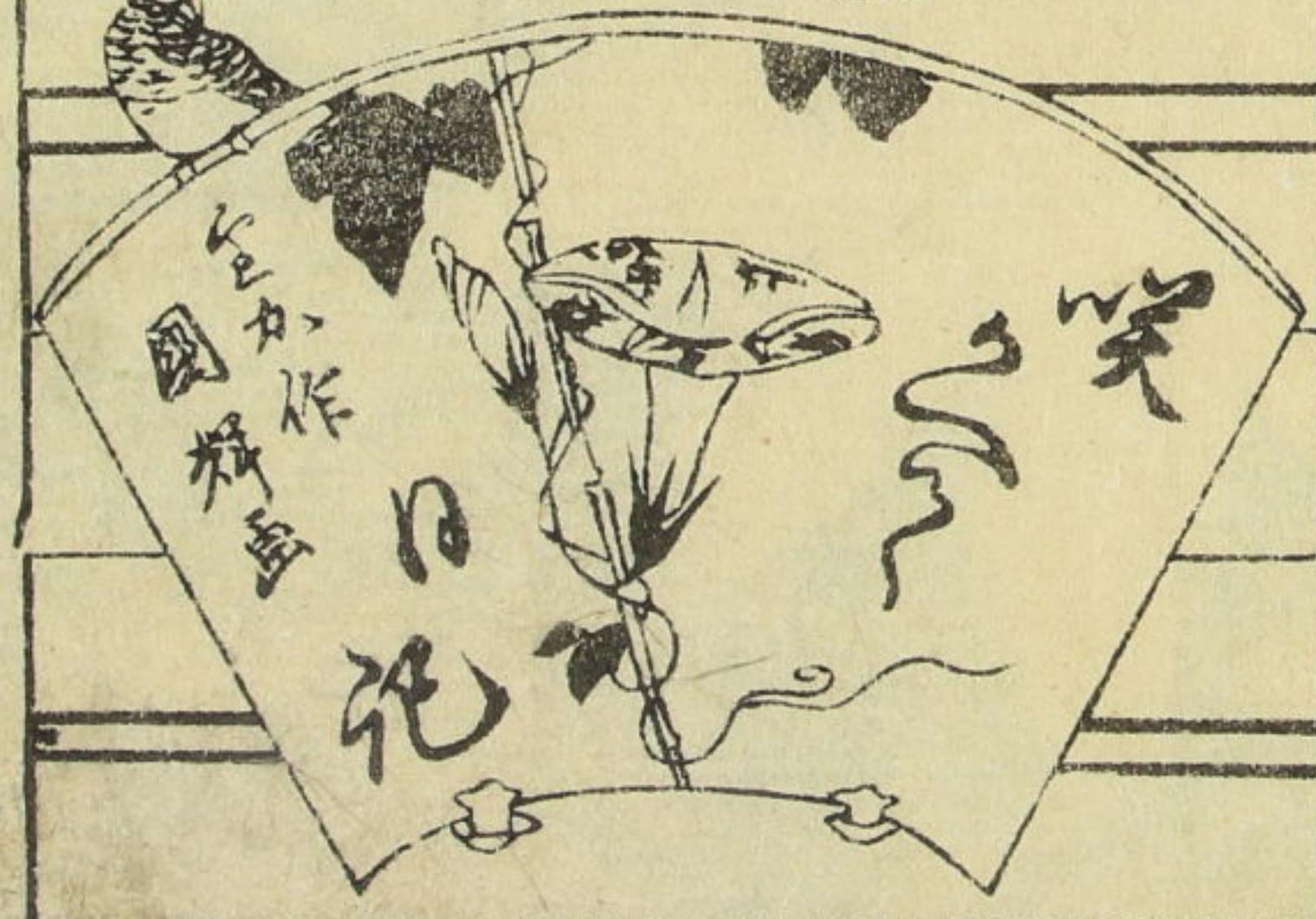
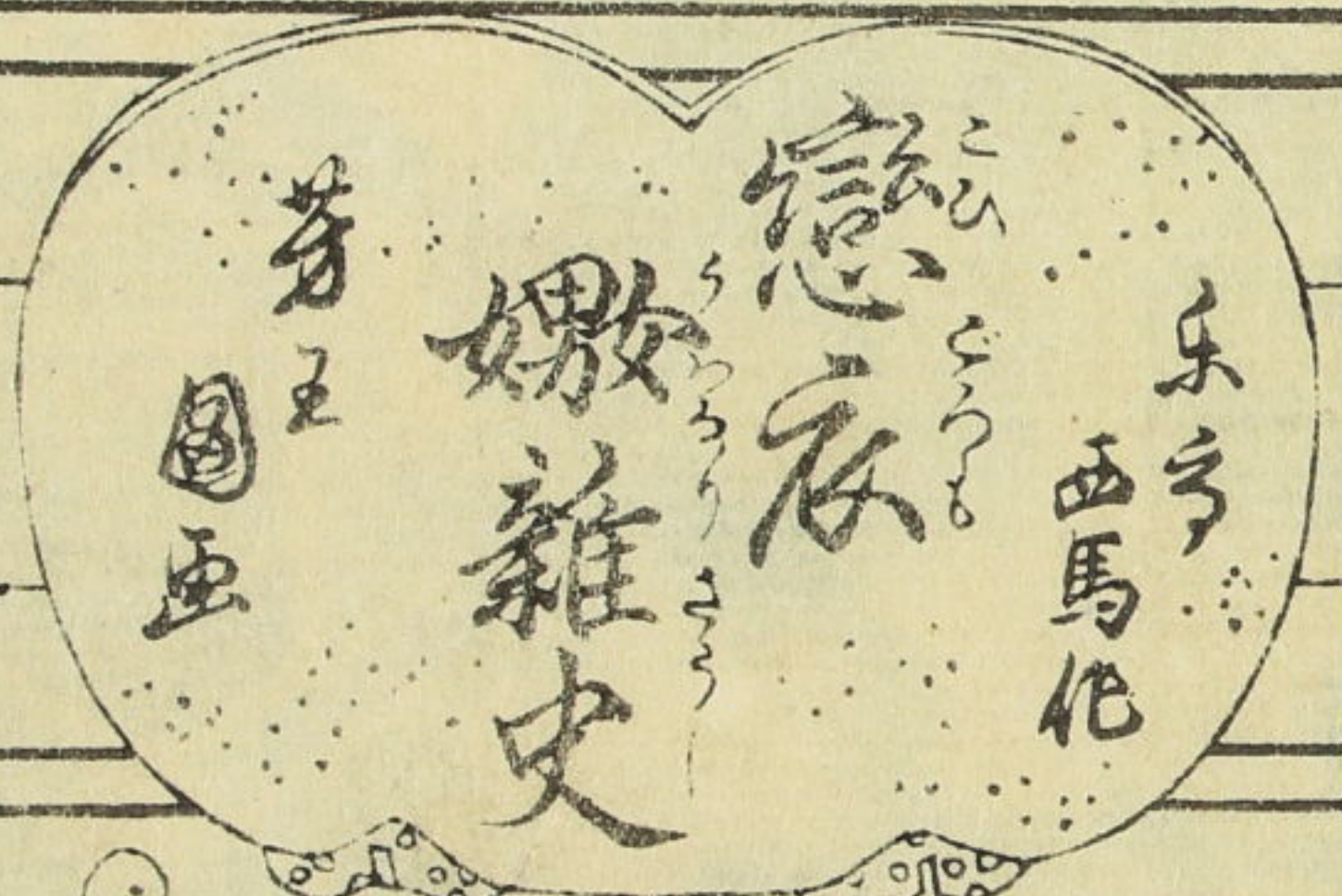
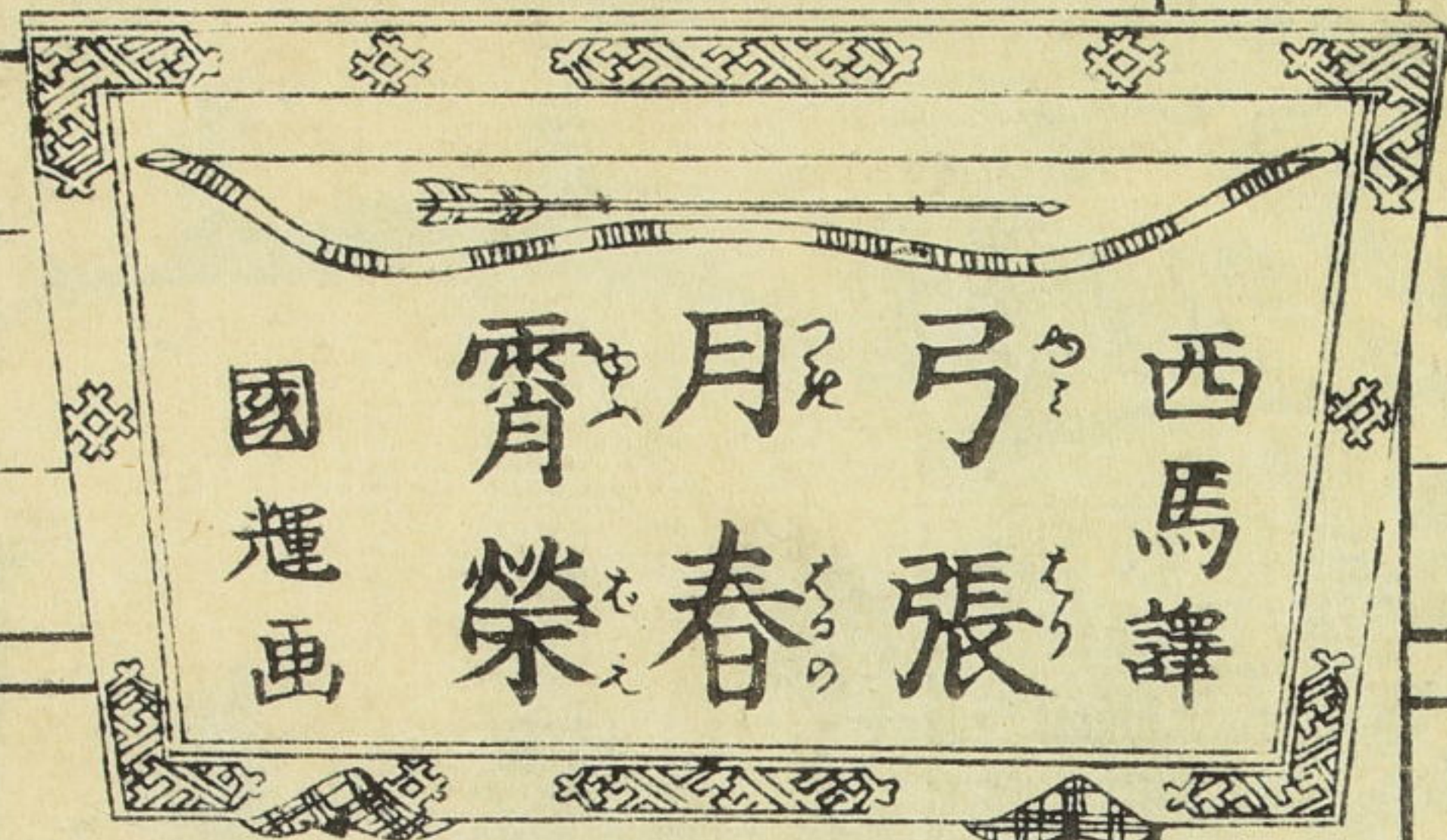
宇張月廿

十一



錦昇堂新發行目錄

東錦繪草紙問屋 照降町 惠比壽屋庄七梓



小夜衛白波草紙 仙果作 芳席画



一雄齋國輝画

樂亭西馬文譚

毛國輝
 此畫乃西馬文譚所作
 其意深遠
 不可言喻
 誠為
 畫中
 之冠
 也

